



4年ぶりの“真夏の祭典” こどもおぢばがえり開幕に喜び

7月29日 3p 記事掲載

ひきよせ

発行所

天理教夕張大教会

〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21

☎ 0126-22-1248

FAX 0126-23-7275

yubaridai146@gmail.com

ホームページ

bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

おぢばの理を頂きたい

育成にまつわるどんな行事も、それを務める人々が、先におぢばへ、また上級教会へと、ひのきしんを伏せ込んでこそ、親神様にお働き頂ける「理」、すなわち親神様から「助けてやりたい」との思いを頂けるのです。親神様から息をかけて頂きさえすれば、我々が子供達と遊ばせて貰う何気ない時間も、お道を伝えられる育成の時間として、特別なものへと変わってきます。

現在、夕張の育成の道は、感染症流行による三年の空白を乗り越え、新たな始まりを迎えました。

今居る子供達に、一から陽気暮らしの明るさを我々大人が伝えて行かなければなりません。おぢばや教会で、一つでも多く楽しい思い出を作つて貰いたいと願います。

大切な態度は、私たちがいつも「おやさま」と共にあることです。いつでも心からおやさまを離さず、おやさまに自分から話しかけ、お



やさまのお言葉に日々教わり、教会におやさまがいらつしやることを、私たちが強く信じている事が、本当に守つて頂ける為の台になるのだと思います。

最後に、夏のこどもおぢばがえりの団参に、自己の時間をお供えし、力を尽くして下さいましたスタッフの皆様は、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

大教会長 藤田大和

お知らせ

母親講座

8月22日(火) 13時～15時

月次祭

9月15日(金) 9時30分開扉献饌
祭典終了後 にをいがけ実動

全教一斉にをいがけデー 9月28～30日

七月月次祭の様

7月に入つて、本格的に暑さが増してきた。一方、梅雨の影響で、全国では局地的な大雨による水の災害に頭を悩ませる地域も多かった。

7月の祭典日、15日の岩見沢は、朝から雨が降り、強く降ったり弱く降ったりを繰り返して、ジメジメとした一日となった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式の祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

講話の前に、9日に出直された旭都分教会四代会長夫人、藤崎和子姉に対して、黙祷を捧げられた。講話には大教会長が立ち、「育成のスタートといえば、やはり少年会です。夏を迎え、道の子ども達を育てる旬が来ています。それぞれの家庭の少年会員が、家族ぐるみで教会へ足を運んで頂きたい。今月末には、こどもおぢばがえりが始まります。おぢばへ帰る。教会へ参拝する。ひのきしんをする。これについて、一人の青年の話をしたいと思います。(2Pへ続く)

20代のA君は精神障害を抱え、出会ってから5年が経ちました。この6月に初めて北海道から四国の実家に里帰りをすることが出来ました。A君は対人恐怖症が酷く、人と話をすると、汗が吹き出して手が震えます。A君の父親は彼が小学生の時に借金を残していなくなつてしまい、また亡くなった祖父にも借金があり、A君の母と祖母が必死に働いて少しずつ借金を返していました。やつとこのことで父の借金を返し終わった頃、長年の心労がたたって、母はうつ病を発症してしまいました。

何とか母の役に立ちたいと、A君は高校卒業後、単身北海道に渡り、大学で農業の勉強をしました。4年間大学で学んだ後、栗山町の農業法人へと就職しました。自分の不安、ストレスを軽減する為、A君は大学の頃より精神安定剤を飲むようになり、次第に量も増え、今度は鎮痛剤を多量に飲むようになり、葉が切れると、パチンコにのめり込み、A君は大学の奨学金を返せないまま借金がかさみ、身体には薬物依存が見られるようになりました。

そんな中、A君は山奥で薬を大量に服用し、自殺を図りました。意識が朦朧とする中で母親の事を思い出し、最後に母に『怖い』と電話を掛けました。その母から会

社へと連絡が行き、彼は発見、救急搬送されて一命を取り留めました。

農業法人の社長が、たまたま夕張の直轄信者さんで、何とか助けてもらえないか、と大教会に相談にきました。そこから社長と私達の二人三脚で、A君のおたすけに取り組んできました。修養科の間には、発作が出て入院することもあり、大教会住み込みの間には、警察のお世話になる事もありました。何度もピンチを迎えながら、現在は札幌のグループホームにて生活しています。

先日の6年振りの里帰り、実家に帰ると、母親は『息子が生きている姿を見られて、本当に良かった』と泣いていました。まだ全快とは言えない状況ですが、最近一人で電車やバスに乗れるまで回復してきました。本当に有難い事と

思います。話を聴くと彼は子どもの頃に一人の友達か、こどもおぢばがえりへ誘ってくれて、おぢばへ帰っていたんです。さらには中学生になつてもう一度、小さい子の引率として帰っていました。おぢばでひのきしんをしていたんですね。そこから時が経って、北海道に来て信仰者の会社に勤め、死ぬところを助けられたんです。これが、おぢば帰りの有難さ、ひのきしんの有

難さですよ。またA君をおぢばへ連れて行つてくれた教会が、彼の家族が住むところが無くなつた折、自分達の住まうところも空けて、A君家族を教会の一部屋にお貸ししたんです。最近判明したそちらの教会に、重ねてお礼申し上げます。

自分の関わる人に親切にしていると、いつか教祖が助けて下さるんです。私達が助けられるかどうか、は関係ないそうです。必ず教祖が働いてくれる時がくるから、ただただ目の前の人に親切に、という事です。

もう一人の話を紹介します。A君の会社の専務、Bさんです。Bさんは先日、自動車事故を起こし、鎖骨を骨折して隣の市立病院に入院していました。車がペシャンコになる程酷いもので、普通なら即死のような事故でしたが、鎖骨の骨折程度で、命に別条は無く、大教会の神殿や信者会館の見える病室で気が付いたそうです。

Bさんは祖母が天理教を信仰していたので、教会の方を見て、『ひよつとして、天理の神様が助けてくれたのか』と思つたそうで例の社長に連絡すると、『お礼詣りに行くぞ』といい、二人で大教会に参拝に来られました。Bさんは参拝後、社長に促され、来年おぢばへ揃つて帰る事を誓ってくれまし

本格的に夏になり、愛知は暑い日が続いております。

7月はこども会とこどもおぢばがえり団参の2つの行事を企画し、声掛けや準備、理作りに励みました。愛知寮は毎年、参加者を募り、こどもおぢばがえりに参加しています。今月は参加者15名を今月の心定めとして、声掛けに毎日歩いていました。

張志の 夕悟 愛知 布教日誌 vol.4



まず、こども会として、流しそうめんを企画しました。参加者100名を目標にし、こどもおぢばがえりに繋がるように毎日頑張つて準備をし、本物の竹を加工してレーンを作り、かき氷も用意し、当日は大人も含め80名に参加して

いただきました。7月31日、8月1日には、こどもおぢばがえりに行きました。目標を達成し、15名の参加者とともにおぢばへ帰らせていただきました。初参加、天理教を知らない子ばかりでしたが、とても楽しんでくれ、来年もまた参加したいと言ってもらえました。暑い中ではありましたが、大きなけが、事故なく終えられました。自分たちで企画し、こどもおぢばがえりへ行くという経験はとても勉強になり、また自信にもなりました。

た。Bさんは事故の直前、実は専務から社長へと昇進したところ。痛みや後遺症でなかなか眠れず、また社長職になつたばかりの事故にもシヨックを受けていました。しかし、深夜の大教会の方を見ると、一つだけ明かりの付いた部屋があつて、「遅くまで苦勞さんだなあ」とずっとその明かりを見ていたそうです。実はその明かりは私の仕事部屋で、私は一方で先月と

てもシヨックな事があつて、眠れぬ夜を過ごしていたのでした。Bさんは「その明かりに僕は救われていたんです」と仰つて下さいました。私も心の落ち着かない日々を過ごしていた中、その言葉に神様を感じました。おぢば帰りや教会参拝、またひのきしんは親神様・教祖が喜んで下さり、先回りをして助けて下さいます。御自身もそうですが、これからの子ども達にもそういういた

夕張団

こどもおぢばがえり

支えてくれたみなさまに感謝



廻廊ひのきしん



岡大教会 話所行事



自由時間



話所プール

経験を夏の夏にしてもらって、これからの人生の為の徳積みさせあげて下さい」と話された。祭典終了後には、こどもおぢばがえりスタッフによる打ち合わせが行われ、予定のスケジュールに沿って細部に至るまで綿密に話し合わせ、来る夕張団の団参へ気持ちを高めて準備を進めていた。

少年会夕張団は7月28から31日にかけて、4年ぶりの開催となったこどもおぢばがえりに参加した。今年の参加者は、夕張話所に現地集合。少年会員32名、育成会員28名の計60名が全国各地から集い、夏のおぢばに子どもたちのにぎやかな声が響き渡った。期間中には、朝のおつとめ、おやさとかた講話といったしこみ



行事をはじめ、各種お楽しみ行事に参加。夕張話所内では、プール行事や花火、ビーチボールでのサッカー大会、さらには本通りでの自由時間や岡話所で開催されている縁日など、連日の猛暑にも関わらず、子どもたちは心ゆくまで夏のおぢばを満喫した。また、スタッフの数も例年より少なく不安視されていたが、連日のミーティングで連携をとりながら、子どもたちのお世話取りに奮闘。特に、現地参加してくれた富山理雄さん(栗山)は、やんちゃざかりな男子少年会員のまとめ役を一手に引き受けて下さり、これからの少年会を担う若い人材としての力を遺憾なく発揮してくれた。そして、話所スタッフのきめ細やかな対応のお陰で、食事をはじめ、話所では皆が安心して過ごすことができ、子どもたちの体調管理に大きな役割を果たして下さいました。(他写真はHPに掲載)

青年会 夕張分会総会

初夏の日差しが降り注ぐ7月9日、大教会にて青年会夕張分会総会が開催された。

対面での開催はなんと4年振り。コロナ禍を乗り越えただけの会員が集まるか、甚だ不安であったが、8、9日両日合わせ、青年会員17名、総勢33名の参加者が集まった。前日8日には食堂にて前夜祭が行われ、逆ビンゴ大会や、格付けチエック大会で大盛り上がり。大変賑やかな夜となった。

9日9時半より総会式は始まり、はじめに青年会長様からのメッセージ動画が流され、全員で拝聴した。青年会本部スローガン『心を澄ます毎日』の意図と概要、その芯たる「かしまの・かりもの」の話をお互いにさせて頂く」とのお言葉をしっかりと心に納めた。

続いて、藤崎勇委員長(上写真右)が「心を澄ますとは、神様からのメッセージを素直に受け取る心を作る事と思う」と話し、自信の身上的の悟りから、起こってくる身上事情に対して、神様が自分にどんな思いを持っているのか思索するのが大事、と伝えた。また、11月25日の本部総会へ団参を組む事を発表し、参加を広く呼び掛けた。

引き続き十二下りのおつとめまなびが勤められた。これだけの青年会員が集まっておつとめをする



ことも久しぶりで、お手振りも鳴物も勇み立って、まさに一手一つとなっていた。

感話には渡部辰大委員(上写真左)が立ち、家族での修養科の大変さとおぢばの有難さを話した。また布教の家愛知察に入寮中の高橋悟志副委員長が動画で登場し、寮生活での出来事や現在の心境を語り、元気で頑張っていることを皆に伝えた。

昼からはスポーツ交流を開催。フットサルとドッジボールを行った。女性も参加し、和やかなムードで、楽しく身体を動かした。

突然の身上や事情で来れなくなった会員もいたが、笑顔と笑い声の絶えない総会となった。この雰囲気は11月の本部総会まで持つていき、夕張の風をおぢばへ吹かせたい。

訃報
旭都分教会四代会長夫人
藤崎和子様
享年九十五歳



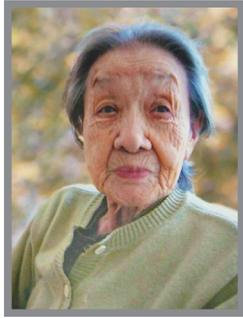
7月9日、旭都分教会四代会長夫人・藤崎和子様が、老衰にて教会で出直された。享年95歳だった。姉は、空知分教会部属の美流渡分教会の信者家庭に生まれ、母の信仰に導かれて教会にも参拝して

いた。修養科修了後、夕張で催された三曲講習会で見初められて、旭都分教会に嫁ぎ、忠男氏との間に二男一女をもうけた。

忠男氏は、夕張教職舎火災の折に大やけどを負い、その後子供と共に夕張に住み込み、また陸級奉告祭の前から悪性肉腫、平成4年には脳内出血と、十年毎に大きな身上を患ったが、夫の身上に際して信仰的に一歩前進して歩み、婦人会常任委員としてバス団参を大いに盛り上げた。

明るく、いつも笑いの中に居られた姉のご生前の大教会へのご尽力に感謝し、深く哀悼の意を表します。ご苦勞様でした。

訃報
北八洲分教会二代會長
三嶋信様
享年百一歳



7月20日、函館の北八洲分教会二代會長・三嶋信先生が出直された。大正13年生まれの101歳だった。昭和17年、足の身上から修養科に入り、修了後、小樽・各務家の

北広島の富ヶ岡学園の入所者の世話をすることとなる。身上が悪化して義足となったが、信仰の力は益々強くなり、昭和46年4月、二代會長となつて以来52年に亘つて、遠く上級・北美に理を繋いで、素直な信仰は小樽、札幌、函館の布教所に受け継がれ、信者も育つていた。

ここ数年施設に入所していたが、この夏、ややに弱られて出直された。おぢばに帰つても義足で本部長まで歩き、汗びっしょりになつても「有難いなあ」と語っていたお姿が思い浮かびます。慎んで哀悼の意を表します。永の年月、ありがとうございました。

婦人会
夕張支部総会



この度、4年ぶりに、婦人会夕張支部総会が開催出来ました事、会員の皆様方に御礼申し上げます。またこの度の支部総会は、新旧支部長の交代という意味でも、一

層意義深いものとなりました。45年に渡つて支部長の責務を果たされた前奥様に、心よりお労い申し上げる次第です。

参加者も、大人106名、小人26名の、総勢132名と賑やかで、勇んだおつとめを婦人会員皆で務める事が出来ました。

婦人会の成人目標
ひながたをたどり
陽気ぐらしの台となりましょう

- 活動方針
- 教祖140年祭に向かって育つ努力、育てる丹精に徹しよう
- 元なる思召しを伝え広めよう
- 老いも若きもおたすけの喜びを味わおう



7月22日 第48回婦人会夕張支部総会

今後も、おぢばの思いに添い、親神様の思いに添って、夕張支部で立てた「日々原典や逸話編に親しみ教祖のお心を学ばせて頂きましょう」との活動目標を持って、ひながたの道を求めさせ頂きたいと存じます。ありがとうございました。 支部長 藤田美由紀

庶務部 7月

- ▽布教所開設
- 希信布教所(直轄) 6・23
- ▽初席
- 吉田博一(馬追) 7・7
- 立石航大(祝梅) 7・29
- ▽誦所ひのきしん
- 梶川芳文(新生生) 7・3
- ▽をびや 2件
- ▽おまもり 2件
- ▽誦所教養掛
- 9月 竹田 元(馬追)

大教会日誌抄 7月

- 1日 たすけ推進会議
- 2日 会長、前会長 栗山年祭
- 9日 青年会総会
- 10日 会長夫妻 祝梅参拝
- 11日 会長、前会長、旭都分葬儀
- 17日 月次祭
- 22日 こども食堂
- 23日 婦人会総会
- 25日 会長おぢばへ
- 26日 会長夫人おぢばへ
- 27日 本部月次祭
- 28日 会長、本部昇殿参拝誘導係
- 28日 講師 〳 28日
- 28日 夕張団参 〳 31日



7月25日 廻廊ひのきしん